

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議室、事務所など目につくところに提示し、確認しやすいようにしている。月に1回のホーム会議ではその内容の実現にむけ、気持ちの統一を図っている。	理念、コンセプトについて利用契約時に本人や家族に説明している。玄関、会議室、事務所に理念ほかを掲示し月1回のホーム会議で理念に沿ったケアについて話し合いを行っている。日常生活の中で利用者には時間をかけてでもできることはやっていただき喜びのある日々になるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長、区社協の方を中心に行事開催の情報個別に頂いている。年に3回のミニサロンには必ず参加して交流を図っている。市内の中学生や高校生の職業体験を受け入れている。	区費を納め区の一員として交流している。区社会福祉協議会で主催している年3回の公民館で行われる「ミニサロン」に6～7名の利用者が参加し、ホーム利用者の席が用意されお茶をいただき、踊りや童謡唱歌を歌い楽しんでいる。毎年中学生が福祉体験に来訪し、また、県社会福祉協議会ボランティアとして高校生が職場体験に来ており利用者で交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の施設が地域内にあるとの事で見学を希望される方があり、積極的に受け入れている。地域の行事や散歩等で交流を図る中で、スタッフの対応を見て理解いただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域・行政の担当者に出席をお願いし、3ヶ月に1回開催。市の相談員制度にてお客様の要望を聞きだしていただき、それを交えて会で意見を集約。サービス向上に活かしている。	3ヶ月に1回開催しており、家族、区長、区消防団員、市高齢者福祉課職員、介護相談員などがメンバーで、全ての家族に開催案内を出し、日常の状況や地域との交流などが記録された会議報告資料も送られている。改善策についても活発な意見交換が行われ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に担当者の出席をお願いしている。認定調査の折には必要時家族に代わって状況の説明を行っている。親族に身元引受人が居ない場合の対応について相談をさせていただいた。	最近一人暮らしからの利用者が増え、身元引受人などについて市に相談することが増えている。介護相談員が月1回来訪し、利用者の意見を汲み取りケアに活かしている。介護認定調査は調査員が来訪しホームで行われ、利用者の状況やケアの取り組みなどを伝え、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年虐待防止の研修の中でスタッフ全員対象に実施。また、やむをえない場合の3要件についても常日頃から考え、安全面での配慮も考えている。	玄関は平日は開錠しており、土日は来訪者が多いことと安全確保のため施錠している。虐待や身体拘束の研修会は年1～2回行い拘束をしないケアに努めている。危険、方法、一時的の3要件については記録を残し安全面での配慮をしている。外出傾向がある方には散歩やゴミ出しに誘いベランダから外を眺めるなど落ち着いて過ごせるようにしている。	

ニチイケアセンター四賀・八ヶ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	今年度はスタッフ全員にセルフチェックを行い、心身の状態の把握をした。研修を行う中でユマニチュウドの実践を揚げ、取り組んだ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度成年後見人を立てているお客様が入所し、受け入れるに当たって制度の理解が進んだ。ひとり暮らしの方が増え、相談を受けることもあった。市に必要事項の相談を掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必要な内容を説明し、理解いただいた中で、署名捺印をお願いしている。それ以降も問い合わせ時には改めて説明をし、不安解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様に常日頃から聞き取る姿勢を持ち、接している。ご家族には、自社の顧客満足調査に協力いただき意見を集約。面会時などと合わせ、聞き取る機会を設け反映に努めている。	若干の利用者以外は思いを伝えることができる。家族には運営推進会議でも聞くが、面会時直接話を伺うよう努めている。顧客満足度調査結果が本社よりフィードバックされ運営に反映させている。更に日常の様子わかる写真入り「ぐるーぶほーむ通信」を郵送し、家族とのコミュニケーションに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のホーム会議やカンファレンスにて個々の意見を集約。またそれ以外でも提案のあった内容をスタッフに周知し、統一を行っている。キャリアアップ制度の活用により評価する機会を設けている。	月1回のホーム会議には全職員出席し情報共有をしている。出られない場合は後日フォローしている。立ち話的に話が出たり、アイデアが出た時には申し送りして話し合い、良いと思ったことはまず実行している。目標管理制度があり随時管理者が面談し、職員のキャリアアップを図り人事考課制度へと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフにアンケートを実施し、意見を寄せてもらった。改善できる点は見直し職場環境の改善に努めた。お客様担当を決め、家族への月1回の報告を通して責任の持続を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議とあわせて月1回の研修の機会を確保。それ以外でもニチイ学館岡谷支店開催の研修や自治体等の研修の紹介を行い、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪市広域主催の研修等に参加し、同業者との交流を図っている。ニチイ学館岡谷支店での会議等に出席し、意見交換を行う中で質の向上を図るべく、努力している。		

ニチイケアセンター四賀・ハケ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には情報の収集に努め、どのようなサービスが必要か探るとともに、家を離れて、生活することの理解を求め、繰り返し聞き取り、説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時に相談にのるとともに、グループホームでの支援の内容を理解いただくようにしている。入所時には家族とともに協力し合う姿勢をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの際に身体的な状況を把握し、グループホームでの生活に負担がないか見極めている。サービスできる範囲の理解を促し、金銭面を含め可能であるか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはできないことの支援を行う立場であるとの認識を持ち、危険のない限り見守る姿勢で居る。また、家事など関わっていただく際には意思を確認し強制にならないように気をつけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や不穏な状態が見られた際はすぐに報告し、適切な対応をとともに考えていただいている。日頃の状態を月に1回書面報告する中で、家族の存在は不可欠であると理解を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からのお付き合いが継続できるように、手紙や電話があった時には個別に対応している。毎週必ず面会される方もあり受け入れを行っている現状。	知人が来られる方、また新茶を送ってもらいお礼の電話をかける利用者もいる。馴染みの美容師が出張で見えたり、家族が髪を整えたり、墓参りに行く方もある。ユニット間の交流もあるが環境が変わると不穏になる利用者もあり、テーブルの席を決める時にも話し合いを重ね、利用者にとって良い方法を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入所された方が多く、軽度であることから動きが活発。重度の方の理解が困難な状況もあり、食事のテーブルは分けている。徐々にその状況を認識し、理解できつつある。		

ニチイケアセンター四賀・八ヶ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後必要のない限り連絡を取ることはない。長期入院後他施設入所の際には、情報の提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にスタッフは意思の確認に努め、支援する姿勢を持っている。言葉だけではなくしぐさや表情でも気持ちを汲み取る努力をしている。	殆どの方が言葉や表情、しぐさで意思表示ができる。昼食、夕食は時間で対応するが、朝食は一人ひとりの時間に合わせ対応している。入居間もない方には入浴時1対1になった時や居室で希望を聞き、席替えなども行っている。利用者も慣れてくると不穏になることが少なくなってくるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の書式を活用し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様ごとの介護記録により、日々の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの内容をもとに担当者会議を実施し、担当スタッフを主に意見を求めている。家族には面会時や電話などで考えをお聞きし、参考にしながら計画書の作成を行っている。	各職員は1~2名の利用者を担当している。計画の見直しは2~3ヶ月に一度、変化がなければ1年間、変化があれば随時見直している。管理者と計画作成担当者がモニタリングを行い介護日誌を参考にし会議を開き、計画についての検討の場を設けている。家族からの意向も聞き計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録により情報を共有し、必要な内容を盛り込んで計画書を作成している。状態により見直しが必要であれば、その都度、内容の変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様の状態を正確に把握し、何が必要か考え支援するように努力している。		

ニチイケアセンター四賀・八ヶ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の公民館活動を紹介していただき、希望者を募って参加している。グループホームの理解も地域の方にしていただけました。消防団に運営推進会議の資料を郵送し、有事の際の協力を求めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医が月に2回診察。それ以外でも必要時には時間を見つけて往診して下さっている。(15名)個人の主治医の往診を受けている方もいる。(2名)家族が対応している方もいる。(1名)	8割の利用者がホームの協力医をかかりつけ医としており月2回の往診を受けている。ホーム利用前からの主治医を継続している方は家族が受診対応をしている。また24時間対応の訪問看護ステーションから看護師が週1回来訪し健康管理を行っている。最近、歯科医の往診も入るようになったという。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護の協力を得ている。必要な情報を共有し、その時々アドバイスを受けている。訪問以外でも電話での対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面での情報提供を行っている。カンファレンスに出席し、退院後の対応について確認。医療連携相談室にもその時々で相談し、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合における対応に係る指針を説明している。状態により特別養護老人ホームの申請を家族に相談し申し込みをお願いしている。	ホームとして看取りの経験もあり、利用契約時に重度化した場合の説明が十分されている。利用者の状態に変化が生じた場合、医師、看護師と連携を取りながら医療行為が発生するまでホームとしてできる限りの介護に取り組み、その後の対応について家族と相談し、他施設や病院を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修項目に取り込んで行っている。スタッフ2人以上の確認、対応を統一している。救急車の要請も的確にできるように研修内容に盛り込んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。(消火訓練、通報訓練各1回)スタッフの緊急連絡網を作成し、配布している。運営推進会議で地域の協力を要請し、有事の際の対応をお願いしている。	年2回、春と秋に区長、地域の消防団、介護相談員の協力を得て避難訓練を実施している。2階の利用者はエレベーターも使用し全員玄関より駐車場に避難し、避難できた方には襷をかけ避難できたことを知らせている。運営推進会議でも地域や消防団の協力をお願いしている。	

ニチイケアセンター四賀・八ヶ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ親しんだ中でくだけた会話を楽しむとともに人として敬う気持ちを常に忘れず、何かに関わっていただいたときには感謝の気持ちを伝えるように心がけている。	利用者に対しては人生の先輩として尊敬の気持ちを込めて話をしている。呼び方は名前に「さん」を付け優しい言葉かけをしている。年1回、法人として人格の尊重やプライバシー保護の研修が行われ、ホーム会議でも管理者が研修を行い、利用者に何かに関わっていただいた時は「ありがとう」の言葉を伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の意思を確認することを常とし、その気持ちを尊重することで、決定権はお客様にあることを伝えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や入浴など、なるべく希望に沿って負担のないように対応している。なかなか自分でやりたいことをいえないことが多くなり、スタッフが塗り絵や外気浴等提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でできる方は任せているが、陽気にあった服装を提案している。できない方はスタッフが用意し、身だしなみを整えている。整髪や髭剃りは任せられる方が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はスタッフ全員で立てている。要望を取り入れたり季節、行事に合わせて内容を工夫している。女性のお客様は興味と意欲を持って調理等何らかのかかわりを持ってくださっている。	全介助の利用者が若干名いるが、それ以外の方は箸・スプーンで自力摂取できている。献立、調理は職員が行い、利用者も力量に応じて洗い物・食器拭きなどのお手伝いをしている。ひな祭りにはちらし寿司を作り、お花見には花見弁当が用意され楽しく食事ができている。ホームの畑でじゃが芋やねぎを収穫してコロッケを作り好評であったという。地域の方からの差し入れもあり献立に取り入れている。家族とともに外食に出掛ける利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食、トロミ剤使用の方が2名おり、対応している。水分は1日1500ccを目安に食事や間食の中に盛り込んでいる。それ以外でも入浴後や希望時にお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内を確認し、衛生面、安全面に配慮している。就寝時は必ず口腔ケアを支援し、入れ歯の洗浄も行っている。		

ニチイケアセンター四賀・八ヶ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を参考に必要な支援を行っている。ご自分で行かれる方はその動向を観察し、必要以上に声掛しないように見守っている。	布パンツ使用の方が若干名おり、殆どの方がリハビリパンツにパットを使用し介助が必要となっている。出来るだけ意思表示を行えるよう取り組み、排泄表を参考にし4時間行えていない方には食事前や活動前に声かけをしている。廊下に緑のマークが付けられ、また、ドアに飾り付けがされるなど、トイレの場所がわかりやすくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品の摂取により改善に努めているが、服薬に頼らざるをえない。(6名)運動を取り入れているが変化を望めない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回予定を立てて実施している。気分や体調により柔軟に対応している。夜に入りたい希望もあったが、職員が安全を確保できないので説明して昼間入っていたいしている。入浴剤使用が好評。	自立の方は若干名で、全介助と二人介助の方が数名おり、その他の方も一部介助、見守りが必要となっている。基本的に週2回の入浴を行い、半身ボードを入れ湯に浸かれるように心掛け入浴後は水分補給に注意している。入浴拒否の方には時間や日を変えたり、人を変えて対応している。家族と一緒に温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんど午睡する方がいないが、短時間、ご自分で居室にて休まれる場合もある。自力で動けない方は希望や様子によりお聞きしてベッドに誘導している。寝具の洗濯を週1回実施。清潔保持。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師の指導を受け、処方された薬の保管も安全に行っている。内容の確認は個人ごとのファイルに紙で綴っており、何時でもスタッフが確認できるようになっている。変更内容の周知徹底に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の役割を見つけ意欲を持って頂くことをスタッフの責務とし、できることはもちろん、個人的に必要な支援を日常の中に取り組みむようにしている。起床時の布団上げ、カレンダーめくり、シーツ交換、居室内外のモップ掛け等を習慣づけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	陽気に合わせて外気浴にお誘いし、他のユニットの方と談笑されることもあるが、スタッフの都合で充分対応できていない。外出はご家族に頼ることが多い。4月の花見は少人数づつ支援している。	玄関先にベンチを置き日光浴をしたり、ゴミ出しの手伝いをしたり、駐車場まで散歩するなど気分転換している。外出は家族に頼ることが多くなっているという。家族が迎えに来て自宅に帰ったり外食に出掛けたり、墓参りに行く利用者もある。春にはホーム近くの堤防の桜を見に、また、区で開催の「ミニサロン」にも出掛けている。	

ニチイケアセンター四賀・八ヶ岳ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に預かっていることを説明し、個人では持たないようにお願いしている。手元にないことを不安がる方が多いが、徐々に必要性を感じなくなるよう。個人で使う機会も持っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったり不穏状態で家族の協力をお願いする時には制限せずに電話をかけている。手紙のやり取りをされている方はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんどの方がリビングで過ごされる。室温、湿度など配慮し、物の置き場所等安全にも気をつけている。飾りつけや植木など季節感に合わせて対応している。座席も必要時見直し、居心地重視で考えている。	共有部分の空調は床暖房とエアコンで行われ快適である。日中を過ごすリビングには観葉植物が置かれ季節に応じた飾り付けがされている。安全安心に配慮された空間が作られており、整理整頓されたリビングでおしゃべりをしたり、テレビを見たりと利用者が思い思いの時間を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身のお気持ちで居室にいらっしゃり好きなだけ居室でおひとりの時間を過ごされる。ほとんどの方がリビングで過ごされることが多く、皆で居ることで安心されている様子。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどご家族にお任せしている。動線の安全面からスタッフが提案させていただくことはある。布団でお休みされる方が2名あり、それ以外はベットを使用されている。	充分な広さが確保された居室には大きなクローゼットが設けられ使い勝手の良い造りとなっている。使い慣れたタンスが置かれ、壁に付けられたハンガー掛けには誕生日に職員から贈られた手作りの色紙が飾られ、鏡台などが置かれた居室が見られた。入居もない方の居室にはベットのみが置かれ、これから新たな生活が始まることを感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置、居室の位置はご本人が分かるように工夫をしている。居室内はご本人の暮らし方を観察して、ご本人が暮らしやすいように見直し続けている。おひとりお一人に合わせたユニット内の動線の安全確保に努めている。		